

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

# 学校便り

第354号  
平成28年3月24日

練馬区立光が丘第八小学校  
校長 鈴木 隆志

## 「共生」から「共創」へ

校長 鈴木 隆志

光が丘第八小学校の平成27年度は、本日修了式を迎え明日の卒業式を残すのみとなりました。今年度は、29名の6年生が巣立ちます。光八小では、学校・家庭・地域のみんなの力で、光っ子たちみんなを大切に育ててきました。この一年、光っ子たちはそれぞれに大きく成長をしました。

光八小では、「包容（広い心で相手を包み込み、受け入れること）の教育」を理念としています。「包容」の思いとは、『違いを認めて、共に生きる』（共生）ということです。光っ子一人一人の幸せを願い、学校環境や教室環境、指導方法を見つめ直し、日々の教育活動に取り組んでいます。光っ子一人一人にとって分かりやすく楽しい授業を目指し（分かる・できるための指導・支援）、落ち着いて生活できる教室環境の整備や周りの子との相互理解を深める学級づくりを進めること（安心・安定するための指導・支援）で、全ての光っ子の笑顔を紡いでいきたいと考えています。

こうした思いは、ユニバーサルデザインの考えと同じです。障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいように都市や生活環境をデザインすることが、ユニバーサルデザインの考えです。光八小では、「授業のユニバーサルデザイン」を目指しているのです。

今年度、わかば学級が開級10年目となりました。11月14日には記念集会を実施しました。光っ子たちみんなで、各クラスの楽しいお店を回り、わかば学級開級10年目をお祝いしました。各学年とも、日頃から、わかば学級と通常の学級との交流及び共同学習を進めています。4年生が実施した二分の一成人式でも、みんな一緒に取り組み、それぞれみんなが活躍をしていました。

本校では、新年度6月から、トイレの大規模改修工事を行います。校舎西側のトイレを全面的にリニューアルし、洋式化・ドライ化するとともに、車いす対応のトイレも設置します。12月までかかる大工事ですが、施設・設備面でのユニバーサルデザイン化を図ります。

4月1日より「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）が施行されます。差別をなくし、誰にも優しい社会を目指す法律です。また、東京都教育委員会は2月に「東京都発達障害教育推進計画」を策定しました。小学校では通常の学級に6.1%在籍すると言われる発達障害と考えられる児童への教育の充実を図ります。制度として変わることは、4月からの「特別支援教室」の導入です。これまで、情緒等通級指導学級に通っていたお子さんが、在籍校で巡回指導を受けることができるようになります。

電車やバスには、「優先席」があります。1973年に当時の国鉄が導入した「シルバーシート」に始まり、2000年前後に「優先席」と改められましたが、私はこの「優先席」に疑問を感じています。と言うのも、優先席だから席を譲る、優先席でなければ席を譲らない、そんな状況が見られるからです。座席全てが優先席であってよいはずだと思うのです。目の前にお年寄りが立っているのに、席を譲る行動もせずに、優先席へ行けと言わんばかりの顔をするのは、絶対におかしいことです。

「共生」（共に生きる）から、「共創」（共に創る）へと進化していきましょう。「共生」は状況を表しますが、「共創」は行動や働きを表します。光八小も「共創」を目指してまいります。

一年間の学校への御理解・御協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。